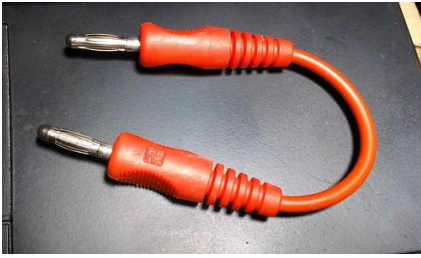


REBOX 動作点検手順

REBOX 本体の動作確認の基本は導通テストです。これは豆電球の検査と同じなので現場で簡単に行えます。動作確認の取れたケーブルが一本必要です。以下のようなケーブルを携帯すると便利です。



本体出力端子をこれで短絡させます。REBOX は端子を短絡させても壊れる事はありません。この状態で電源を入れ、通常の治療手順で導通が確認できれば、本体は正常に動作しています。

【導通が確認される条件】

- 普段通りに操作できる。
- メーターが振れ、音が鳴る

導通がないように見える場合は、以下の点に注意してください。

1. 電源が入っているか？

メンブレンが劣化しており、電源ボタンが押しにくくなっている場合があります

2. 電池の容量は十分か？

test キーで電池残量が確認できます。4V を切っていたら新しい電池と交換して試してください

3. 安全装置が働いていないか？

電源投入時に Amplitude ホイールが 0 の位置でないと安全装置が働き、電気が流れません。Amplitude ホイールを反計周りに回して 0 の位置まで戻してください

4. 動作音ボリュームが鳴らない場合、ボリュームは下げられていないか？

mode0,1,4 の時の range+/range- ボタンが動作音ボリュームです。ボリュームが下げられていると治療音は鳴りません。mode の説明については取扱説明書をお読みください

5. プリセットキー1~4の値が変更されていないか？

治療音は治療周波数で鳴ります。一般的に人間の耳にはっきり聞こえやすいのは 3000Hz 付近です。プリセットの値が変更されている場合もあるので、今何 Hz で鳴っているのか確認してください。man キーを押せば Frequency ホイールで音の高低が変化するので、より確実に動作確認できます。

上記が確認できた場合はいずれも故障ではありませんので、本体の修理は不要です。

また、メンブレン劣化に伴うボタンの不感もしくは自動押下については、稀に発生する程度でしたらそのまま使用する事ができます。メンブレンの貼替は数万円の修理代となるため、そのまま使用するのであれば修理・点検の必要はありません。

【付属品の診断】

本体が故障していない事が確認できたら、付属品が動作不良の原因であると考えられます。本体の故障がない事が上記で確認できれば、テスターがわりに付属品の診断が行えます。導通がない、または弱い場合、以下を確認してください。

6. 先端及び端子、内部の汚れ具合

電気が通じなければ動作しない道理です。汚れや錆が付着している場合はまず除去してください

7. ケーブルの場合、被覆内部での断線

患者に接する側のケーブルのコネクタ付近が内部断線しやすいようです。外側から見て繋がっていても、金属ですので内部で疲労断線している場合があります。コネクタを曲げ伸ばしして、たまに接触がある場合は、これが原因です。単芯ケーブルですので、自力修復が可能な場合もありますし、汎用品ですので通販で購入可能です。

https://www.monotaro.com/p/1888/4854/	https://www.monotaro.com/p/1329/8838/
	
テイシン (T. SIN) テストリード 赤・黒各色 1 本 計 2 本 全長 1,000mm 販売価格 (税別) ¥1,390 ※価格は 2024 年調査時のものです	テイシン (T. SIN) テストリード 赤・黒各色 1 本 計 2 本 全長 2,000mm 販売価格 (税別) ¥1,490 ※価格は 2024 年調査時のものです

金属部分の錆や汚れを落として回復する場合は、単なる清掃不足です。それ以外は何らかの故障と考えられるので、修理、または新品交換が必要です。弊社に修理依頼した場合、どちらが妥当であるか判断いたします。

REBOX 製品バージョンの区別

REBOX は年代により 3 つの製品バージョンがあります。修理依頼の際には区別する必要があります。



【REBOX 酒井医療モデル】



【REBOX 水色タイプ】



【旧型 REBOX 緑タイプ】

一番右側の旧型 REBOX(全体が緑っぽい色で、ダイヤルが角ばっており、表示窓の文字数も少ない)は、弊社で 2008 年以前に販売していた初期のレボックスです。すでに耐用期間は過ぎており、在庫部品もないため、修理可能かどうかは都度確認が必要になります。